



2025年度 母性看護学領域

中村幸代(教授) 竹内翔子(講師) 篠原枝里子(講師) 木寺雅希(助教) 渡邊智美(助教)

## 2025年度母性ゼミ生の研究活動

2025年12月2日(火)に卒業研究発表会が行われ、母性ゼミ生14名が個々の研究テーマで発表を行いました。また2月7日(土)に開催された第39回神奈川母性衛生学会学術集会にて、ゼミ生7名が卒業論文の一部を発表しました。うち5名が専門雑誌への投稿にも挑戦中です！

### <卒業研究を終えて>

初産婦に対するポンディング支援を研究しました。身体面・精神面・社会面・母子の絆が相互に影響し合っていることを学び、広い視点から母子を支援できるよう今後も学習を続けたいです。

2025年度ゼミ生 花田 真美さん



## 2025年度修了生より 大学院での研究活動を通して



大学院での研究活動を通して、研究の基礎的な知識や方法論を学ぶとともに、自身の関心に沿った研究テーマを先生方やゼミの仲間と共に具現化してきました。検討を重ねる中で、理論的・方法論的な難しさに直面することもありましたが、その過程そのものが研究を深く理解する貴重な学びとなりました。また、研究に向き合う経験を通して、将来のキャリアや研究の発展についても視野が広がったと感じています。

博士前期課程母性看護学分野修了 禹効定さん

量的研究に取り組み、研究計画の立案から論文投稿に至るまでの一連の過程を経験する中で、根拠に基づき思考する重要性を学びました。先生方の丁寧なご指導と院生の皆様の支えのもと研究を完成させることができました。今後は助産師として、研究で培った視点を実践に活かし、母子保健の向上に貢献できるように精進していきたいです。

博士前期課程助産学分野修了 坂口華さん

大学院では、基本的な研究方法の習得に留まらず、助成金の獲得や学会誌への論文投稿にも挑戦し、研究者に必要な力を実践的に学ぶことができました。また、「論理的な思考力と母性看護学領域の教員に必要な能力を培う」という自身の目標も概ね達成できました。2年間手厚く丁寧にご指導いただきました母性・助産ゼミの先生方、学生の皆さんに心よりお礼申し上げます。

博士前期課程母性看護学分野修了 椎名翔子さん

大学院での生活は、自分なりに「助産」と向き合い続けた2年間でした。問いを立て、根拠を探りながら考えを深める過程は決して簡単ではありませんでしたが、その一つ一つが自分の土台となり、研究を通して根拠に基づいて考える姿勢の大切さを改めて実感しました。ここで得た学びと探究心を大切に、これからも助産師として学び続けていきたいと思えます。

博士前期課程助産学分野修了 前田有今奈さん

## 大学院修了生の研究活動 優秀演題賞を受賞しました！



2025年11月に千葉県幕張メッセで開催された第39回日本助産学会学術集会にて、2024年度助産学分野修了生の岩淵彩菜さんが課題研究の一部を口頭発表し、優秀演題賞を受賞しました！

岩淵彩菜、竹内翔子、篠原枝里子、中村幸代  
演題名：「助産師による外国人褥婦に対する  
出産退院後から1ヶ月健診までの生活に向けた  
支援の実態」



## 教員の研究活動 ひらめき☆ときめきサイエンスを開催

今年度のひらめき☆ときめきサイエンスに「冷えを科学しよう：  
伝承のサイエンス☆探究体験(代表者：  
中村幸代教授)」が採択され、高校生を  
対象にプログラムを実施しました。  
当日は講義や体験型プログラムを通して、  
冷え症について科学的な視点で学びを  
深めました。



★本学大学院へ進学をお考えの方はお気軽にご連絡ください。

連絡先: [yubosei@yokohama-cu.ac.jp](mailto:yubosei@yokohama-cu.ac.jp)

※2026年度のオープンラボは4月17日(金)に開催予定です。